

# 国際法概論シラバス

助教授 瀨本 正太郎  
shotaro@kobe-u.ac.jp  
<http://www2.kobe-u.ac.jp/~shotaro/>

## 講義目標

1. 国際関係を法的に捉えるものの見方を身につける。
2. 国内法とは異なる論理の法を学び、法に対する視野を広げる。
3. 他の国際法関連科目に進むための基礎を作る。

## 講義内容

国際法の全分野を鳥瞰し、その全体像を把握することを第一の目的とする。ただし、漫然と全分野を「流す」ことはせず、各分野で重要な問題を深く分析することにより、国際法の論理と構造を理解させるように努める。

「国際機構法」・「国際紛争と法」・「国際通商と法」で扱われる分野については、ごく簡単に触れるにとどめる。

## 教材

### 必携3点

1. Antonio Cassese, *International Law*, Oxford University Press, 2001.
2. 田畑茂二郎ほか編 『判例国際法』(東信堂、2000年)
3. 条約集(『解説条約集』(三省堂)、『国際条約集』(有斐閣)、『ベーシック条約集』(東信堂)、Malcolm D. Evans, *Blackstone's International Law Documents*, Blackstone Press, 6th ed., 2003.のいずれか。)

### 自習用図書

- ・日本語の教科書として適当なものは
  - ・簡潔なもの  
松井芳郎ほか『国際法』(有斐閣Sシリーズ、第4版、2002年)
  - ・標準的なもの  
杉原高嶺ほか『現代国際法講義』(有斐閣、第3版、2003年)
  - ・詳細なもの  
藤田久一『国際法講義』(東京大学出版会、1992、1994)  
山本草二『国際法』(有斐閣、新版、1994)

- ・『判例国際法』以外の判例・事例集を参照するには
  - 山本草二ほか編『国際法判例百選』(有斐閣、2001)
  - 太寿堂鼎ほか編『セミナー国際法』(東信堂、1992)
  - 祖川武夫ほか編『日本の裁判所による国際法判例』(三省堂、1991)
  - 国際司法裁判所判例研究会が『国際法外交雑誌』に判例評釈を随時掲載
  - 「日本の国際法判例」研究会が『国際法外交雑誌』に判例評釈を随時掲載
- ・基礎理論をしっかり学ぶには
  - 田畑茂二郎『国際法』(有斐閣、新版、1972)
- ・論点ごとの勉強や答案練習をするには
  - 坂元茂樹『ゼミナール国際法』(法学書院、1997)
  - 香西茂ほか編『プラクティス国際法』(東信堂、1998)
- ・専門用語を調べるための辞書としては
  - 国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、1995)
- ・本講義で用いる以外の外国の教科書の適当なものとしては
  - Malcolm Shaw, *International Law*, 5th ed., Cambridge, Cambridge Univ.Pr., 2003.
  - Denis Alland (éd.), *Droit international public*, Paris, PUF, 2000.
  - Wolfgang Graf Vitzthum (heraus.), *Völkerrecht*, 2.Aufl., Berlin, de Gruyter, 2001.
- ・英語の学習方法については
  - 斎藤兆史『英語達人塾』(中公新書、2003年)
  - 鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』(岩波新書、1999年)

#### 参考文献・資料

以下の「講義予定」参照

関連資料・情報は随時演本ホームページ(上記)に掲載する。

自分でさらに文献を調べたい場合、

法学部 HP(<http://www.law.kobe-u.ac.jp/>)の「研究学習資源」を参照する。

インターネットでの資料検索

国際法学会 HP <http://www.soc.nii.ac.jp/jsil/index.htm>

そのほか一般的に

- ・法に対するものの見方を身につけるために
  - 平野仁彦ほか『法哲学』有斐閣アルマ
  - 長尾龍一『法哲学入門』日本評論社
- ・国際関係に対するものの見方を身につけるために
  - 高坂正堯『国際政治 恐怖と希望』中公新書
  - 中西寛『国際政治とは何か』中公新書
  - 船橋洋一サイト <http://www.asahi.com/column/funabashi/ja/index.html>

## 成績評価方法

期末試験。なお、自由参加の中間試験を行い、中間試験で高得点を得た場合、期末試験の成績に加算する。

## 講義予定

### 注意事項

- ・この講義は、出席者は十分な予習をしてきているという前提で行われる。
- ・予習課題は、以下に記す教科書の範囲および判例集等の関連文献である。
- ・各講義時の終わりに、次週分の「予習の手引き」を配布する。「予習の手引き」には、教科書のどこに注意して読むべきかの留意点のほか、読んでおくべき判例集・文献の範囲、さらに、一歩進んで勉強したい学生向けの参考文献などが記されている。初回講義の「予習の手引き」は3月末にHP公開済である。
- ・予習の際には、以下のことに気をつけること。
  - ・意味のわからない言葉は必ず調べる。
    - ・英和辞典は、少なくとも『リーダーズ』クラスのものが必要である。『中辞典』程度では足りない。
    - ・英英辞典に挑戦するならば、Oxford Advanced Learner's Dictionary を薦める。それでは語彙数が足りないと感じるようになれば、Collin's COBUILD English Dictionary や Concise Oxford Dictionary を使うといいだろう。
    - ・英和辞典等を見ても意味のわからない専門用語は、日本語の教科書や『国際関係法辞典』あるいは一般的な法律学事典を図書館で参照するなどして、徹底的に調べる。
  - ・「 条約 条」が引用されている場合、必ず条約集で条文を読む。
  - ・判例については、事実関係と裁判所の見解とをはっきり区別し、いずれも簡潔に説明できるようにしておく。
  - ・わからない点を明確にしておく。これが一番大切である。いくら調べても、いくら頭をひねっても、どうしても理解できない、という箇所をはっきりさせておくこと。
- ・濱本が担当した過去の講義のシラバス・配布資料・試験問題・試験講評・授業評価アンケートは、上記HPに掲載している。ぜひ参照されたい。
- ・質問を受け付けるためのBBSを作成し、上記HPからリンクを貼る。必要なIDは講義時間に伝える。

## 講義で取り扱う教科書の範囲

4月 9日	1. The Main Legal Features of the International Community 2. The Historical Evolution of the International Community
4月16日	3. States as the Primary Subjects of International Law
4月23日	5. The Fundamental Principles Governing International Relations 5.1 Introduction ~ 5.4 Non-intervention in the internal...のみ
4月30日	6. International Law-making: Custom and Treaties 6.1 Introductory Remarks および 6.2 Customのみ
5月 7日	6. International Law-making: Custom and Treaties 6.3 Treaties ~ 6.5 The Introduction of <i>Jus Cogens</i> in the 1960s
5月14日	8. Implementation of International Rules within National Systems
5月21日	9. State Responsibility
5月28日	10. Mechanisms for Promoting Compliance with International Rules and Pursuing the Prevention or Peaceful Settlement of Disputes
6月 4日	11. Enforcement in the Case of Violations by States
6月11日	4. Other International Legal Subjects 4.5 Individualsのみ 12. Enforcement in the Case of Violations by Individuals
6月18日	13. The Role of the United Nations 14. Collective Security and the Prohibition of Force
6月25日	15. Legal Restraints on Violence in Armed Conflict
7月 2日	16. Protection of Human Rights
7月 9日	17. Protection of the Environment